平成２２年１０月
盛岡市三本柳6-1-1
盛岡赤十字病院
地域医療連携室
発行責任者 院長 沼 里　　進

Leaf

盛岡赤十字病院医療連携だより No.21

基本理念　私たちは、人道・博愛の赤十字精神にもとづき、みなさまの生命と健康を守るために、信頼される医療を実践します。

受診する人の人生を豊かにするための健診部でありたい

健診部長　鎌　田　弘　之

私は平成18年より当院の健診部に所属しております。健診部では年間に約1,700名の職域検診と約900名の人間ドック（一泊および日帰り）の健診を行っております。平成18年７月には、健診の実施場所を現在のＣ病棟に院内移転し、広々としたスペースを使わせていただいております。この院内移転により、一泊の人間ドックの受診者の個室化に対応することになり、受診者からも『ゆったりとした気分で健診が受けられる』と好評を博しております。このように健診部のハードは当院の検査機器や病棟を活用することで、他の健診機関に比類して水準以上と思っております。私の悩みは、『健診部として、ソフトも含め、さらに質の高いものにするためにどうあるべきか』です。

先日、私の恩師である前岩手医科大学第二内科教授の平盛先生とお話しする機会が有りました。先生は現在モリーオ会社の代表取締役として、忙しい日々をお過ごしのようです。平盛先生は『最近、医大の庭球部の雑誌に寄稿したもので、自分では出来がもう一つと思っている』とおっしゃいながら数枚の原稿を私に下さいました。少々長いのですが、一部を引用させていただきます。

～略～　厚労科研費研究によって、「国が行っている健診および保健事業」の殆どには根拠がないことが明らかにされているのに、健康日本21や健康増進法などで義務化された健診を受けて一喜一憂する、学問的に嘘っぱちだと分かっているメタボ健診を受けて自分の健康を心配する、有効との根拠がなく害をなすこともある健康サプリメントの摂取を続ける、やたらと薬物を服用し続けて血液検査の異常値を正そうとする、健康食品と称するものを嬉々として有り難がる、喫煙すると肺癌で死ぬと決めつけて嫌煙運動に血道を上げるなど（喫煙者では死因の２％が肺癌：平山雄）、「健康カルト」の種は尽きません。

～中略～

それなのに、今の日本人には、健康への幻想、医療への過信があり、それが固定観念となっていて、生老病死への素直な感受性を損ない、自他の生死を痛切に思うことがなくなり、人の営為の深刻さを感知せず、世の中の悲惨や無残を思うことが乏しくなっています。生活習慣関与病や不健康は、あってはならないと思い込み、健康への異様な執心と盲目的な健康増進行為に走っているのです。～以下略
（『「基本」をはずし「カルト」に染まる「ヤワ」な人たち』より抜粋）

平盛先生のスタイルは答えをこれだと直接示すではなく、問題を提起し、それを自分たちで考えさせるというものです。この文章は私の悩みである『自分たちのやっている業務を、どうすれば本当に意味のあるものとできるのだろうか？』ということに、明確に答えているように思えます。私なりにそれを要約し、ここで言わせていただきますと『漫然と検査をおこなうだけであってはいけない、受ける人の人生を豊かにしなければならない』です。

健診部は他の診療科と違い、治療行為や画像診断など他の診療科への正確なる情報提供を業務としておりません。診察を行いその際に検査結果を受診者に伝え、その解説を行い、後日、結果をまとめたレポートを作成しそれを受診者に送付することを主業務としております。私は、この業務の流れの中で診察こそが当院の健診業務の大いなる特色になるだろうと思っております。受診者を目の前にし、検査値や画像を示し、その人の人生にどのように関連していくのかということを意味づけする、そして医療はその人にどのような価値を与えることができるのかを、時間の許す限り受診者と一緒に考えようと思っております。受診者の悩みは『この様な症状の時には何科にかかればよいのか』など医療関係者にとって些細なことも多いのです。私としては、レポートを作成するだけではなく、診察や面談等を通して、目の前にいる受診者と一緒にその人の人生をも考えていくことで、健康カルトにそまることなく、健診結果を価値のあるものとしていただけることを業務としたいと考えております。

皆様方のご指導、ご鞭撻の程よろしくお願いいたします。

広い受付カウンター

入院ドック室（全個室）

歓談スペース

医療社会事業部「相談室」のご案内

医療社会事業課　川　村　美奈子

医療社会事業部・相談室は地域医療連携室と同じ部屋に所属し、経済的な問題や社会福祉制度に関する相談の他、入院中の赤ちゃんから高齢者までの退院支援や通院患者さんの在宅療養支援などを行なっております。

退院支援については、国の医療制度や病院の機能分化といった大きな流れの中で病院の責務として必要な事業になってきました。当院では「退院支援システム」を作り、相談室のスタッフが入院早期からかかわりを持ち、退院時には安心した療養生活が送れるよう、ご本人やご家族、そして主治医や病棟看護師とよく相談して、退院後の生活を一緒に考えて対応することを目指しております。また、通院の患者さんについても外来と連携しながら、在宅支援サービスへつないだり今後の療養の場の相談に応じるといった支援を行なっております。

患者さんご本人がどう生きたいのか、どこで過ごしたいのかという声にしっかり耳を傾け、地域の医療機関や在宅サービス機関とも連携とり、地域との橋渡し役となるよう取り組んで行きたいと考えております。

また、緩和ケア相談室として緩和ケア病棟への入院相談も担当しておりますのでお気軽にご連絡くださいますよう宜しくお願いいたします。

≪スタッフ≫
川　村　美奈子　保健師（右）
阿　部　邦　子　社会福祉士（中央右）
佐々木　奈津美　社会福祉士（中央左）
金　田　可奈子　社会福祉士（左）

『あなたのお口、健康ですか?』

～NST活動報告～

ＮＳＴ専門栄養士　鈴　木　聖　子
NSTチェアマン　副院長　旭　　博　史

当院のNST（Nutrition Support Team：栄養サポートチーム）の活動については、これまでも報告してきましたが、今年で５年目を迎えました。適切な栄養療法をチーム医療で行うNSTは、今後一層普及していくと思われます。

以前より、摂食嚥下障害や栄養管理の地域連携「地域一体型NST」を、NST内のグループで取り組んできましたが、今年、岩手県歯科医師会にご協力をいただき、口腔ケアの活動を開始することができました。専務理事の佐藤保先生、奥州市国保衣川歯科診療所佐々木勝忠先生にこの場をお借りして御礼申し上げます。

月一度、佐藤先生と、佐藤たもつ歯科医院の赤坂幾子歯科衛生士に来院いただき、院内に口腔ケアの重要性、低栄養や誤嚥性肺炎と口腔ケアの関連性などを啓蒙して頂くとともに、様々なケースを学ぶため、毎回異なった病棟で実技指導をいただいております。地域オープン型のNST勉強会でも重要性を啓蒙し、ご指導いただきながら、「院内口腔ケアマニュアル」を発行することができました。

PEG（経皮内視鏡的胃瘻造設術）や、主な栄養管理に関しての地域一体型NSTは主流となりましたが、当院では今後、口腔ケアに関しても、地域連携していかなければならないところです。

患者様が病院、施設、在宅でも共通した適正な栄養管理を受けることができるよう、今後も地域の医療機関、施設などの皆様と協力して、栄養サポートを実践していきたいと思います。

実技指導中

実技指導後のカンファランス

お知らせ

栄養サポートチームのホームページが出来ました。活動の紹介、研修の案内などを掲載中です。是非一度お立ち寄りください。

当院ホームページからお入りください。
【盛岡赤十字病院ホームページ】
URL：http：// www. morioka. jrc. or. jp
TOP ≫ 病院案内 ≫ NSTの紹介

✚ 地域医療連携運営委員会発信
『盛岡赤十字病院地域医療連携手帳』のご案内

副院長兼地域医療連携室長　村　井　啓　子

当院では、地域医療連携運営委員会が中心となり、『盛岡赤十字病院　地域医療連携手帳』を作成し、患者様へお渡しする事といたしました。

厚生労働省が推し進める機能分化は医療機関の役割を明確にして個々の機能をより発揮できるようにと取り組まれております。

長く継続受診しておられる患者様には、かかりつけ医への紹介の話をするとまだ、「見放された。」感を抱く方が少なくありません。そんな場合でも、機能分化についての説明を試みますが、患者様は平静ではいられません。このような患者様にこの手帳をお渡ししながら説明します。書かれている内容は、機能分化（地域医療連携）に関わる説明と、病状によりかかりつけ医から当院へ紹介してもらえること、紹介先（かかりつけ医）を記載します。

これは、**紹介患者様全てにお渡しするものではありません。**また、保険点数も無く“お守り”的な要素が大きいこの取り組みですが、当院からの紹介状を持参した患者様が、窓口で提示された場合は、必要事項（医療機関名等）のご記入をよろしくお願い申し上げます。なお、当院へのご紹介方法等に変更はございません。

盛岡赤十字病院
地域医療連携手帳

◇　この手帳は、患者さんが当院で診療を受けられた事を証するものです。

◇　病状が安定している患者さんは、今後は「かかりつけ医」へ紹介してあなたの病状を診ていただくことになります。

◇　病状が変化した場合は「かかりつけ医」とご相談の上、当院宛に紹介状をご持参ください。

◇　“地域医療連携”とは、地域の医療機関が役割分担して協力し、一人の患者さんの診療をすることです。

盛岡赤十字病院長

（ID；　　）
様
（M・T・S・H　　年　月　日生、男性・女性

発行年月日	平成　　年　月　日

あなたの『かかりつけ医』として
紹介する医療機関

※この欄は、当院が記入いたします。
※患者さんが「かかりつけ医」をお決めになる場合は、当院からの紹介状を持参し、記入していただいてください。
※今後の当院の診療は、かかりつけ医とご相談の上、紹介状をご持参ください。

【医療機関名及び、住所・電話番号】

【医療機関名及び、住所・電話番号】

【医療機関名及び、住所・電話番号】

【医療機関名及び、住所・電話番号】

盛岡赤十字病院
〒020-8560 岩手県盛岡市三本柳6地割1番地1
【TEL】019-637-3111(代表)
【FAX】019-637-3801
【URL】http://www.morioka.jrc.or.jp

新任医師紹介

平成22年９月１日付採用

木（き）澤（ざわ）英（ひで）樹（き）　神経内科副部長

９月１日より神経内科副部長に任命された木澤です。

生まれは宮古市で、出身校は埼玉医科大学です。趣味は、学生時代からテニスをやっていました。

脳梗塞を中心に神経疾患を診療しております。患者様の身になって診療するよう、頑張りますので、今後ともどうぞ宜しくお願いします。

退職しました。

馬　場　祐　康（緩和ケア科副部長）　平成22年７月31日付

お世話になりました